

注目!! 第107回看護師国家試験は出題基準改定後、最初の試験です。

出題基準が変更になりました。

出題基準については、2016年2月に厚生労働省HPにて「保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会」報告書が公表され、一般問題や状況設定問題については、視覚素材の活用や長い状況設定文の導入によって知識の単純想起型出題を減らしていく方向性が示されました。

こうした流れを受け、2017年3月30日に厚生労働省より、「保健師助産師看護師国家試験出題基準 平成30年版」が公表されました。出題基準は、国家試験の出題範囲と言えます。前回は平成26年に公表されており、平成29年2月19日実施の第106回看護師国家試験まで適用されました。今回の出題基準は第107回国家試験から適用となりますので、改定内容をしっかりと確認して国家試験へ備える必要があります。東京アカデミーではいち早く新出題基準に対応し、第2回、第3回模擬試験、夏期講習テキスト、冬期講習テキスト等を作成しております。

出題基準と合格基準を知る

まずは出題基準をしっかりと押さえ、「やるべきこと」を明確にしよう

看護師国家試験問題は、分野の専門家が何度も練り上げて作った「出題基準」をもとにしています。近年見られる「看護の統合と実践」分野からの出題もすべて「出題基準」に沿っています。弊社オープンセサミのように、出題基準を網羅している最新の参考書を準備しましょう。

◆一般問題+状況設定問題 合格基準の推移

	第101回 (平成24年)	第102回 (平成25年)	第103回 (平成26年)	第104回 (平成27年)	第105回 (平成28年)	第106回 (平成29年)
得点 / (満点)	157点 / 247点	160点 / 250点	167点 / 250点	159点 / 248点	151点 / 247点	142点 / 248点
得点率	63.5%	64.0%	66.8%	64.1%	61.1%	57.3%

必修8割、一般+状況設定7割を確実に得点しよう

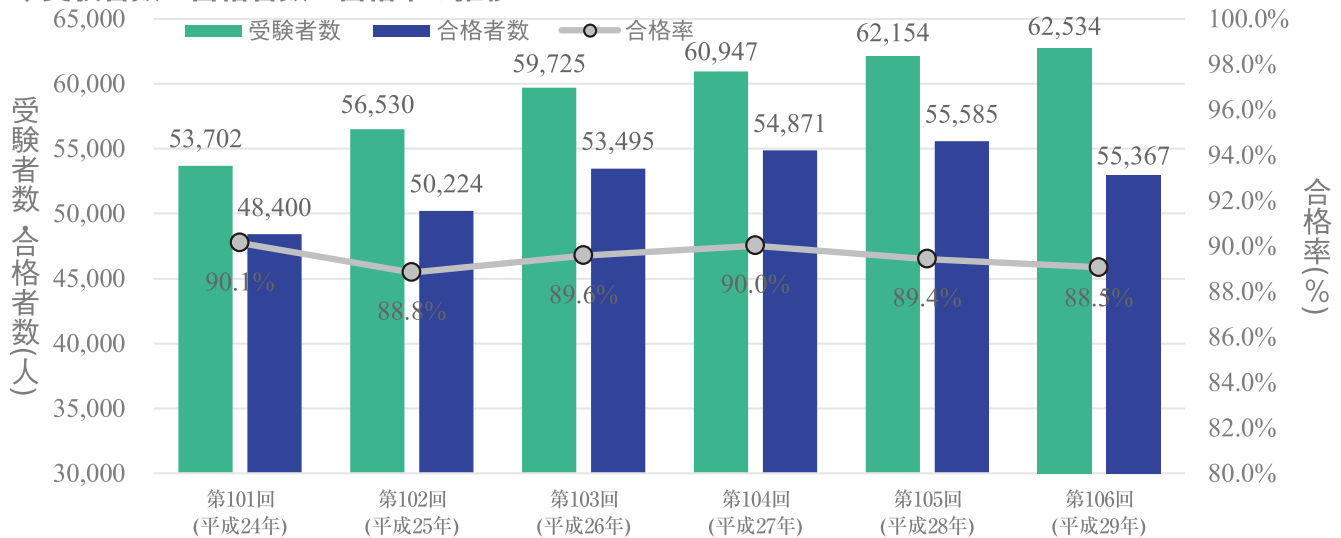
厚生労働省が定める合格基準では「必修問題の正答率(8割)」と「一般+状況設定問題」の2項目につき基準値を満たしていることが必要と明記されています。「一般+状況設定問題」の合格基準は毎年変わりますので、最低でも7割の得点ができるよう、しっかりと学習しましょう。

合格率の推移を知る

不合格者数の増加

ここ数年、合格率は90%前後で推移していますが不合格者数は年々増加しており、第106回試験ではついに7,000人を超えました。今後も看護大学・学部の増加等から受験者数、合格者数は増加する可能性があります。

◆受験者数・合格者数・合格率の推移



第106回国家試験 すべての受験生中、既卒者の合格率は35.59%

既卒生の合格率はここ数年3割~4割と、現役生に比べて格段に低くなっています。現役生は、学習環境が整っている学生のうちに合格する力を身に付けましょう。既卒生は学習方法を見直し、基礎力~実践力までを確実に身に付けるための環境を確保することが必要です。

東京アカデミー通学講座受験生中 既卒者のみの合格率

60.07%

出題傾向と対策方法を知る

第106回看護師国家試験は、全体として看護の基本をより重視した問題構成となっていました。厚生労働省が公表していたように、五肢択二問題の増加や状況設定問題における単問の導入があり、五肢択一問題が昨年の40問から28問へ、五肢択二問題が昨年の24問から31問へ増加しました。特に五肢択二問題は、受験生が迷いやすい問題が多く、もともと正答率が低いこともあり、加えて計算問題が2問連続で出題されたことに負担を感じた受験生も多かったのではないのでしょうか。

必修問題では、単純想起問題が多く、難易度は必修問題らしい最低限の知識を問うものでした。一般問題と状況設定問題の全体的な傾向として、毎年、社会情勢が反映されたものが出題されますが、今回は、新しいものとして特定行為や今まで出てこなかった先天性異常に関する問題が複数出題されました。それ以外に、午前問題午後問題どちらにも出題された放射線に関することや障害高齢者の日常生活自立度に関する問題は、より深い知識を問うものでした。その他、毎年出題されるカタカナ言葉問題として、ピアサポーター、パレー徴候などもありました。共通して言えることは、「診療の補助」と「療養上の世話」という看護師の基本的な仕事を理解していることが重要であり、患者の状況をアセスメントし、できる看護は何なのか?という、看護の基本を押さえていることが、正答へと繋がるということです。毎年言えることですが、看護師国家試験に出題される問題の多くは、過去問題の応用であり、現場でよく遭遇する疾患・検査・治療・看護です。第107回試験から出題基準が変更されますが、必要以上に怖がらず、基本的な知識を根拠とともに理解して、どのような新傾向にでも対応できるように学習が求められるでしょう。